

私の大好きな家族

一年 小林向日葵

私の家には、十五歳のおばあちゃん犬がいます。名前はフィンです。犬種はミニチュアピンシャーで、私が産まれる前から我が家にいる、お姉ちゃんです。高齢になったので、足腰も弱り白内障も進み、右目は見えない状態ですが元気に過ごしていました。

ところが今年の五月、フィンはウッドデッキから一メートル程下の芝生に転落し、動けなくなっていました。食欲も落ちほとんど何も食べない日が続き、便も自分で出せませんでした。私は、このまま死んでしまうのではないかとも思いとても怖かったです。

家族全員がフィンに死んでほしくありませんでした。そこで両親は、フィンが食べてくれるご飯を探したり、頭をぶつけても安全な小屋を探したり、便が出るよう肛門のマッサージをするなど、懸命に介護をしました。昼間フィンが一人になってしまったため、近くに住む曾祖父母に預かってもらうなど、家族みんなで協力し、介護しました。私も、学校からなるべく早く帰り、オムツを変え、フィンが大丈夫か様子を見ました。それに応えるようにフィンも頑張り、今では食事も便も順調になりました。手足も少し力が入るようになり、ベッドなど足が沈む場所では、五秒程は動けるようになりました。今では、

「抱っこして」と鳴き、抱っこされればされたであわよくばテーブルの上の食事を食べようと、首を長ーく伸ばして狙う程の食欲が出てきています。

私たち家族も獣医さんも、状態が良くなると思っておらず、一ヶ月もたないと思っていました。獣医さんからも、

「このまま様子を見るしかない。」

と言われ狂犬病の注射も免除され、フィリアの予防薬も必要ないと説明されていたので、その回復は、予想外の展開で非常にうれしい出来事でした。それは、フィンがケガに負けずに、生きようと必死に頑張ったからだと思います。

私がこのような状態になってしまったら、怖くて辛いから、フィンのようにあきらめずに頑張れないと思います。フィンの姿を見て本当にすごいなと思いました。私も辛いことがあっても、あきらめずに頑張ろうと思います。

フィンは私や弟妹がお腹にいる時から、母のお腹に寄り添って私たちのことを守ってくれました。産まれてからも、嫌なのを我慢しながら、私たちの相手をしてくれました。だから今度は私がフィンのお世話をする番です。この先フィンと別れる時まで、抱っこで安心してもらったり、オムツをかえたりするなどし、恩返ししていきたいです。